

**全国**

発行 全国市議会議長会  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-2  
代表 TEL 03 (3262) 5234  
旬報 TEL 03 (3262) 2309  
発行人 原田 正司  
<http://www.si-gichokai.jp>

ぜんこく  
しぎかいじゆんぽう

平成26年  
(2014年) 5月25日  
毎月3回5の日に発行  
(購読料は会費を含む)

第1905号  
定価 1部20円

# 市議会旬報

個性を活かし自立した地方をつくる観点で

## 第31次地方制度調査会が発足

第31次地方制度調査会が5月15日に発足、第1回総会が首相官邸において開催され、本会から佐藤祐文・本会会長(横浜市議会議長)が委員として出席した。

同調査会は、内閣総理大臣の諮問機関として、委員30名で構成し下掲。

総会では、委員の互選により、会長に畔柳信雄・(株)三菱東京UFJ銀行特別顧問が就任し、安倍総理から諮問文が手交された。

諮問は、個性を活かし自立した地方をつくる観点から、人口減少社会に的確に対応す



畔柳会長(右)に諮問文を手交する安倍総理(左)

る三大都市圏及び地方圏の地方行政体制のあり方、議会制度や監査制度等の地方公共団体のガバナンスのあり方等の調査審議を求めるもの。

安倍総理は、挨拶の中で、「個性を活かし自立した地方をつくるべく、私の内閣で更に前に進めていきたい」と述べた。

懇談では、佐藤本会会長から「20年余りにわたって進められた地方分権改革に伴い、地方自治体の自己決定、自己責任の範囲が拡大し、地方議

会の役割は一層重要さを増したことから、更なる地方議会の権能強化が必要」との発言があった。

## 佐藤会長が有識者ヒアに出席

第13回地方分権改革有識者会議(座長 神野直彦・東京大学名誉教授)が平成26年5月16日に内閣府において開催され、佐藤祐文・本会会長(横浜市議会議長)ら地方六団体の代表者が出席した。

佐藤会長からは「これまで取りまとめた参考となる。地方六団体の意見は、26年6月を目途とされている最終ヒアリングからは、このままの地方分権の取り組みに對

発言する佐藤会長



### 委員名簿

- 【地方六団体6名】  
▽古田肇・岐阜県知事(全国知事会)▽多賀久雄・京都府議会議員(全国都道府県議会議員会)▽森田孝一(全国市長会)▽佐藤祐文・横浜市長(全国市長会)▽藤原忠彦・長野県川上村長(全国町村会)▽蓬清二・香川県直島町議会議長(全国町村議会議長会)
- 【国会議員6名】  
▽石田真敏・衆議院議員▽西銘恒三郎・同▽福田昭夫・同▽中田宏・同▽石井正弘・参議院議員▽野田国義・同
- 【学識経験者18名】  
▽飯島淳子・東北大学教授▽



ヒアリングに臨む佐藤会長(左) [写真提供=内閣府地方分権改革推進室]

式については、その運用に当たり基礎自治体の意向を十分踏まえ、推進していただきたい。今後とも基礎自治体への権限移譲や多様な大都市制度の実現に向け推進していただきたい。分権により、基礎自治体の自己決定権が拡大しているため、住民の期待に応えられるよう、議会の権能強化について更なる見直しを行うべきなどを発言した。

# 総務省 議会のあり方研が 報告書をまとめる

総務省は、平成26年4月30日、「地方議会のあり方に関する研究会報告書」を公開した。

地方議会のあり方に関する研究会は、25年8月に発足し、座長の長谷部恭男・東京大学大学院法学政治学研究所教授をはじめ、8名の構成員からなる。26年2月まで7回の研究会を開催し、3月に報告書を取りまとめた。

研究会の目的は、「近年、地方議会の機能等を強化し、その自主性・自立性を高める制度改正が累次にわたり行われている。また、地方分権の進展に伴い、地方公共団体の自己決定権・自己責任が拡大され、議会に期待される役割は一層重要である。一方、現状は議会がその役割を十分に果たしていないのではないかなどの指摘があり、議会の抱える課題や各議会の取り組み事例等を踏まえ、今後の分権時代にふさわしい研究会を開催すること」である。

報告書は、①地方議会を取り巻く環境の変化②地方議会のあり方③地方議会議員のあり方④地方公共団体の規模等に合わせた議会制度のあり方⑤これからの時代における地方議会の目指すべき姿の5章からなる。

①地方議会を取り巻く環境の変化では、地方分権改革の進展、時代の構造的な変化、地方議会の現状と課題を大きな柱としている。少子高齢化、人口減少社会の到来する中、分権改革の進展により、議会の権限や自由度の拡大に資する制度改正が積み重ねられ、議会運営において自主性

を発揮できる環境が整ってきており、議会の役割がこれまで以上に重要であるとし、その代表機能を真に取り戻し、住民に十分に信頼されることを目指していく必要があるとしている。

②地方議会のあり方では、議会の存在意義は何か、審議をどう活性化するかを大きな柱とし、後者では、団体意思決定機関としての議会、議会と住民の関係について、それぞれ、問題の所在、検討の視点、個別の検討課題に分け、整理している。想定される検討課題として▽議会の本質的な役割としての議決事件という観点に基づく地方自治法第96条の再構成▽議会独自の情報ルート確立など意思決定を支援する機能の充実▽公聴会や参考人制度の活用による民

意的確な反映・住民参加拡充▽審議状況等の一層の情報発信や議会活動への評価の仕組み構築による住民の関心・信頼確保などを挙げている。

③地方議会議員のあり方では、議員はどうあるべきか、議員をどう選ぶかを大きな柱とし、後者では、選挙制度、多様な層の幅広い住民から議員をどう選ぶかについて、②と同様に、それぞれ、問題の所在等を整理している。想定される検討課題としては▽大規模団体における選挙区設定や政策競争のある政党本位の選挙制度導入に対する考え方▽サラリーマンの立候補や議員活動のための休暇制度、議員の任期満了後の復職制度等の導入に対する国民的議論▽女性議員割合の増加▽公務員

の立候補制限や議員との兼職禁止の緩和等に対する社会的理解などを挙げている。

④地方公共団体の規模等に合わせた議会制度のあり方では、問題の所在、地方公共団体の性質に応じた区分の考え方、人口規模に応じた議会制度のあり方、制度の検討の方向性が大きな柱。人口規模の大きい地方公共団体の議会では、事務分野が多く、行政が複雑多岐にわたるため、議員のより高い専門性や、政策課題・選択の幅が広いため、多様な意見を踏まえた意思決定が求められていると指摘している。一方、小さい団体の議会では、地域の課題をきめ細やかに捕捉する役割が特に求められること、無投票当選の割合が比較的高いことに鑑み、議員のなり手を増やす視点の

必要性を指摘している。また、想定される検討課題として、大規模団体における選挙区設定や比例代表制導入など有権者の実効的選択をより可能とする選挙制度、人口規模や地域が抱える課題など実情に応じた議員定数のあり方などを挙げている。

⑤これからの時代における地方議会の目指すべき姿では、今後、議会の更なる活性化等のため、必要な制度の見直しの検討等により、真に住民の代表機能を取り戻すことが重要になると考えているとし、報告を終えている。

## 議会人事

- ▼事務局長 山本 満(4・1)
- ▼北見 置田俊一(4・1)
- ▼留萌 川村 豊(4・1)
- ▼稚内 布施 茂(4・1)
- ▼深川 高瀬昌之(4・1)
- ▼恵庭 橋場誠次(4・1)
- ▼伊達(北海道) 佐藤之宣(4・1)
- ▼弘前 小田 実(4・1)
- ▼黒石 長谷川直伸(4・1)
- ▼盛岡 加藤 彰(4・1)
- ▼宮古 上居勝弘(4・1)
- ▼花巻 神山芳武(4・1)
- ▼久慈 大森正則(4・1)
- ▼陸前高田 戸羽良一(4・1)
- ▼仙台 塩田博之(4・1)
- ▼石巻 門間泰則(4・1)
- ▼名取 今野博幸(4・1)
- ▼多賀城 紺野哲哉(4・1)
- ▼岩沼 加藤英教(4・1)
- ▼栗原 今野金充(4・1)
- ▼横手 皆川規和(4・1)
- ▼男鹿 木元義博(4・1)
- ▼相馬 谷津田政弘(4・1)
- ▼二本松 齋藤源次郎(4・1)
- ▼本宮 安田 章(4・1)
- ▼新潟 齋藤 淳(4・1)
- ▼燕 堀越 基(4・1)
- ▼五泉 廣瀬郁平(4・1)
- ▼胎内 小野孝平(4・1)
- ▼富山 橋本勝広(4・1)
- ▼高岡 敦賀茂樹(4・1)
- ▼滑川 大澤義信(4・1)
- ▼砺波 池田仁吾(4・1)
- ▼南砺 清水哲郎(4・1)
- ▼七尾 一花英人(4・1)
- ▼小松 村中 進(4・1)
- ▼羽咋 堀田吉樹(4・1)
- ▼かほく 川崎健二(4・1)
- ▼越前 長谷川作兵衛(4・1)

【3面へ続く】

▽日立	岩淵寛行(4・1)	▽所沢	村上光利(4・1)	▽島田	平川勝裕(4・1)	▽枚方	分林義一(4・1)	▽有田	境 正吉(4・1)	▽大牟田	中尾清志(4・1)
▽笛吹	三沢 久(4・1)	▽川口	吉川潤一(4・1)	▽富士宮	齊藤俊彦(4・1)	▽堺	北田靖浩(4・1)	▽生駒	川口忠良(4・1)	▽土佐清水	山下毅(4・1)
▽甲府	堀内正仁(4・1)	▽熊谷	小林常男(4・1)	▽沼津	上原正之(4・1)	▽大阪	藤原正樹(4・1)	▽御所	益田孝佳(4・1)	▽宿毛	朝比奈淳司(4・1)
▽座間	黒沢輝明(4・1)	▽川越	佐藤美智子(4・1)	▽静岡	岡田貞夫(4・1)	▽可児	吉田隆司(4・1)	▽桜井	西田澄夫(4・1)	▽高知	藤原 哲(4・1)
▽大和	小林 豊(4・1)	▽みどり	岩崎照雄(4・1)	▽匝瑳	藤崎俊一(4・1)	▽各務原	勝野公敏(4・1)	▽奈良	加井康章(4・1)	▽東温	青木隆弘(4・1)
▽厚木	山口美千代(4・1)	▽館林	小野陽一(4・1)	▽八街	吉田 一郎(4・1)	▽恵那	渡辺厚司(4・1)	▽加東	西角啓吾(4・1)	▽伊予	宮岡 崇(4・1)
▽秦野	宮村慶和(4・1)	▽沼田	茂木進一(4・1)	▽袖ヶ浦	花澤隆幸(4・1)	▽瑞浪	可知勝宏(4・1)	▽南あわじ	小坂利夫(4・1)	▽伊予	宮岡 崇(4・1)
▽三浦	出口義徳(4・1)	▽伊勢崎	三友孝之(4・1)	▽富津	渡辺栄作(4・1)	▽美濃	井上政司(4・1)	▽養父	津崎淳子(4・1)	▽新居浜	藤田秀喜(4・1)
▽杉並	本橋正敏(4・1)	▽さくら	添田和弘(4・1)	▽君津	鈴木盛一(4・1)	▽美濃	平野一彦(4・1)	▽三田	下嶋健司(4・1)	▽松山	西山秀樹(4・1)
▽世田谷	小田桐庸文(4・1)	▽那須塩原	阿久津誠(4・1)	▽鎌ヶ谷	田中延佳(4・1)	▽中津川	齊藤信広(4・1)	▽相生	大西真悟(4・1)	▽高松	安部雅之(4・1)
▽江東	鈴木信幸(4・1)	▽大田原	藤沼史生(4・1)	▽流山	加茂 満(4・1)	▽いなべ	太田正人(4・1)	▽尼崎	北江有弘(4・1)	▽美馬	藤川 一郎(4・1)
▽台東	中沢陽一(4・1)	▽小山	小嶋久男(4・1)	▽市原	木口 均(4・1)	▽伊勢	村田浩一(4・1)	▽米原	中谷利治(4・1)	▽阿南	茂村福和(4・1)
▽港	高橋辰美(4・1)	▽日光	佐藤由夫(4・1)	▽習志野	浅井勝則(4・1)	▽四日市	服部久光(4・1)	▽高島	狩野之彦(4・1)	▽柳井	河村弘隆(4・1)
▽羽村	竹田佳弘(4・1)	▽鹿沼	齊藤 潔(4・1)	▽松戸	染谷 稔(4・1)	▽みよし	近藤道雄(4・1)	▽湖南	小島康裕(4・1)	▽山口	村田芳弘(4・1)
▽清瀬	海老澤敏明(4・1)	▽佐野	小曾根辰夫(4・1)	▽市川	西島弘幸(4・1)	▽日進	櫻井弘幸(4・1)	▽甲賀	佐敷政紀(4・1)	▽宇部	常田完治(4・1)
▽福生	森田 明(4・1)	▽栃木	赤羽根則男(4・1)	▽銚子	鈴木新藏(4・1)	▽豊明	石川晃二(4・1)	▽守山	北野豊弘(4・1)	▽江田島	平井和則(4・1)
▽小平	伊藤俊哉(4・1)	▽足利	福田保雄(4・1)	▽ふじみ野	細谷孝之(4・1)	▽岩倉	堀 巖(4・1)	▽三原	田中政康(4・1)	▽東広島	大森 明(4・1)
▽昭島	竹内光洋(4・1)	▽小美玉	木村 靖(4・1)	▽日高	増田和雄(4・1)	▽知立	島津博史(4・1)	▽福山	檀上誠之(4・1)	▽福山	檀上誠之(4・1)
▽青梅	富澤邦男(4・1)	▽桜川	土生都信輔(4・1)	▽坂戸	谷津宜之(4・1)	▽小牧	倉地浩司(4・1)	▽真庭	片岡 清(4・1)	▽瀬戸内	石原知之(4・1)
▽安曇野	平川淳朗(4・1)	▽行方	関野嘉弘(4・1)	▽三郷	田中孝幸(4・1)	▽江南	滝 紀彦(4・1)	▽向日	岩田 均(4・1)	▽備前	草加成章(4・1)
▽東御	宮嶋武彦(4・1)	▽神栖	高安俊昭(4・1)	▽富士見	新井茂昭(4・1)	▽刈谷	岩崎高広(4・1)	▽長岡京	岡本明彦(4・1)	▽新見	戎 齊(4・1)
▽飯山	関谷竹志(4・1)	▽稲敷	櫻井郁雄(4・1)	▽和光	郡司孝行(4・1)	▽春日井	稲葉亮輔(4・1)	▽亀岡	藤村かをる(4・1)	▽総社	守安正道(4・1)
▽中野(長野)	小野富夫(4・1)	▽坂東	海老原信之(4・1)	▽戸田	牧野充宏(4・1)	▽豊川	山口啓和(4・1)	▽宇治	濱岡洋史(4・1)	▽井原	三宅道雄(4・1)
▽須坂	丸田 誠(4・1)	▽守谷	飯野 亘(4・1)	▽蕨	奥田好是(4・1)	▽半田	竹内 健(4・1)	▽交野	濱中嘉之(4・1)	▽笠岡	原田恵吾(4・1)
▽長野	北原 昇(4・1)	▽鹿嶋	黒沢正明(4・1)	▽上尾	田中 覚(4・1)	▽伊豆	飯田勝久(4・1)	▽高石	岸部信一(4・1)	▽玉野	川崎靖司(4・1)
▽坂井	小林憲雄(4・1)	▽笠間	石上節子(4・1)	▽深谷	柿沢孝一(4・1)	▽湖西	松本裕行(4・1)	▽撰津	藤井智哉(4・1)	▽岡山	中田幸成(4・1)
▽あわら	志田尚一(4・1)	▽常総	齊藤 收(4・1)	▽狭山	大野 宏(4・1)	▽裾野	中西章夫(4・1)	▽門真	吉田清之(4・1)	▽橋本	石井 豊(4・1)
▽勝山	小林喜幸(4・1)	▽下妻	倉持総男(4・1)	▽東松山	新井久夫(4・1)	▽御殿場	滝口芳幸(4・1)	▽富田林	置田保巳(4・1)	▽紀の川	城山義弘(4・1)
▽2面から続く		▽石岡	櫻井 茂(4・1)	▽本庄	阪上賢司(4・1)	▽掛川	赤堀 哲(4・1)	▽八尾	渡辺孝司(4・1)	▽海尾	楠戸啓之(4・1)

# 病院協が総会開き役員改選

## 新会長には土田奈良市議長が就任

全国自治体病院経営都市議会協議会は5月8日、東京都市センターホテルにおいて、第72回理事会の後、第42回定期総会を開催した。

総会では、上野孝典・会長(町田市議会議長)の開会挨拶の後、来賓として細田博之(自治体病院議員連盟会長・衆議院議員)が挨拶。続いて、来賓の西川一誠・全国自治体病院開設者協議会会長(福井県知事)のメッセージを披露(事務局代読)した。協議では、平成25年度決算について、坂根守・監事(出雲市議会議長)から会計監査



来賓挨拶する細田博之・自治体病院議員連盟会長



【右】監査結果を報告する坂根監事【左】選考結果を報告する須見役員選考委員長



結果の報告があり、審議の上、これを認定。続いて、平成26年度事業計画案、平成26年度予算案について、それぞれ審議し、決定した。役員改選では、須見明・役員選考委員長(徳島市議会議長)から役員選考結果の報告があり、報告の通り会長、副会長、監事、理事を選任した。病院協新役員市(理事市除く)参照。新会長には、土



病院協新会長 土田敏朗・奈良市議長

田敏朗・奈良市議会議長が就任、新役員を代表して挨拶を行った。また、上野前会長を相談役に委嘱した。



【病院協新役員市(理事市除く)】  
▽会長 奈良市  
▽副会長 江別市、盛岡市、



決議を提案説明する上野相談役

最後に、決議について、上野相談役から提案説明があり、満場一致でこれを決定した。総会決議参照。なお、協議に先立ち、村中健一・総務大臣官房審議官



高岡市、筑西市、磐田市、西脇市、出雲市、土佐市、中津市  
▽監事 大崎市、八幡浜市



①谷公一・自治体病院議員連盟事務局長に対し要望②二之湯智・自治体病院議員連盟会員に対し要望③村中健一・大臣官房審議官に対し要望

(公営企業担当)から「公立病院について」と題する講演、平成26年度より協議会に加盟した恵那市、福知山市及び北播磨総合医療センター企業団の紹介があった。会議終了後、土田会長、上野相談役は、谷公一・自治体病院議員連盟事務局長(復興副大臣)、二之湯智・自治体病院議員連盟会員(参議院議員)、村中審議官に面談し、要望、意見交換を行った。同協議会加盟市議長らも、地元選出の国会議員らに要請活動を展開した。

### 総会決議(前文省略)

▽地域医療の中核を担う自治体病院の経営安定のため、特にへき地医療、高度・特殊医療、周産期医療、小児医療、救急医療などに対し、地方交付税措置等の拡充強化を図ること▽東日本大震災被災地の地域医療を確保していくため、被災地域の自治体病院に対し、全面的な支援措置を講じること▽救急患者の受入不能という事態を防止するため、救急医療体制の確保・充実を図ること▽医師の絶対数を確保するため、医学部定員の更なる増員を図ること▽医師の地域偏在を解消するため、医学部定員における地域枠の更なる拡大を図るとともに、一定期間の地域医療への従事システムを構築するなど抜本的な対策を緊急に講じること▽医師の診療科偏在を是正するため、診療科ごとにバランスのとれた医師育成方策の確立を図ること▽出産・育児等により離職している女性医師や看護職員等の復職を促すため、院内保育所の整備や復職研修の充実、短時間勤務制の導入など働きやすい職場環境の更なる整備を図ること▽医師の負担を軽減するため、勤務環境の改善はもとより、看護師、助産師等医療従事者及び医師事務作業補助者の必要人員確保と養成のための財政措置を拡充すること